

公益社団法人日本地震工学会

第3回 強震動評価のための表層地盤モデル化手法研究委員会

議事要旨

1. 日 時 平成 27 年 3 月 17 日 (火) 14 時 00 分～17 時 00 分

2. 場 所 建築会館 304 会議室

3. 議 題

- (1) 前回議事録確認
- (2) 日本地震工学会論文集・特集号について
- (3) 長野県北部地震の報告会について
- (4) 話題提供 (気象庁観測点に関する講演等)
- (5) 気象庁観測点での表層地盤モデルの情報収集
- (6) その他

4. 配布資料

3-0 議事次第

3-1 前回議事録

3-2 日本地震工学会論文集・リスト (委員会、内部資料)

5. 出席者 (敬称略)

委員長 東 (電中研)

委員 山中 (東工大)、松島 (京大)、植竹 (東電)、池浦 (鹿島技研)、早川 (清水技研)、金田 (竹中技研)、大井 (防災科研)、清木 (宇都宮大)、長瀬 (応用地質)、津野 (鉄道総研)

講演者 高濱 (気象庁)、干場 (気象研)、小木曾 (気象研)

6. 議事概要

(1) 前回議事録確認 (資料 3-1)

・第 2 回委員会の議事録を確認した。

(2) 日本地震工学会論文集・特集号について (資料 3-2)

・山中委員より、論文集特集号についての報告があった。論文投稿後、投稿論文の担当者を各委員に割り振り、査読者(総説が 1 名、報告が 2 名、論文が 3 名)を決定して頂くとの説明があった。

(3) 長野県北部地震の報告会について

・山中委員より、長野県北部地震の報告会の説明があった。2 月 10 日に検討会 (建築会館) を実施したことと、5 月 15 日午後に電機大学 (北千住) で行うことの報告があった。(ただし、後日東大地震研に変更) 当日の報告は 10 名程度で、地震学、建物被害、社会科学など合計 19 チームが報告書作成に参画する。また、当日の参加費は 3,000 円とし、限定 100 部の報告書と DVD が含まれるとの報告があった。

(4) 話題提供

気象庁震度観測点の概要 (高濱様) と気象庁が現在取り組んでいる緊急地震速報へのサイト増幅特性の利用 (干場様、小木曾様) についての話題提供があった。

(5) 気象庁観測点での表層地盤モデルの情報収集

・池浦委員から日本建築学会の調査結果、津野委員から地震学会と土木学会の調査結果について、報告があった。両委員共に、気象庁観測点の表層地盤モデルについての情報はあまり多くなかったと報告した。

・来年度はある地域での構造データを提供することを目的に、委員会メンバー共同で構造調査を行うことの提案があった。候補に挙げた対象地域としては、地盤の非線形性が大きそうなサイト、構造データが少ない関東地方、地震があった長野北部などであるが、まずは関東地方に絞り文献調査も継続する。また、参加可能な委員や機材を提供出来る委員を確認した。

・気象庁の高濱様よりボーリング調査など大きなノイズを出す調査は気象庁観測点では困難であること、微動アレー観測は了解される可能性が高いこと（学会から気象庁に正式に依頼）が報告された。

(6) その他

・次回の委員会開催日は、2015年6月5日（金）15:00 - 18:00 とする。次回委員会では、日本地震工学会のオーガナイズド・セッションや論文査読についても議論する。

以 上